



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(令和元年)9月25日号 No.1804

目次

■ 2019年ロシア統一地方選挙結果	中馬 瑞貴 1
■ キーパーソン	11
カザフスタンで主要閣僚交代／11	
■ トピックス	13
ロシアでのいちご生産に現場管理支援サービスを提供／13	
中国首相、ロシア訪問／13	

2019年ロシア統一地方選挙結果

ロシアNIS経済研究所 研究員
中馬 瑞貴

はじめに

2019年9月8日、ロシアでは全ての連邦構成主体で統一地方選挙が行われた。16構成主体で首長の直接選挙、1連邦構成主体で首長の間接選挙、13構成主体で議会選挙が行われたほか、地方自治体レベルでも3構成主体の行政中心都市で市長選挙、22の行政中心都市で市議会選挙、さらに約6,000の自治体で行政府長官の選挙や議会選挙が行われた。

4構成主体で決選投票へともつれ込んだ前年とは異なり、今回の首長選挙は代行を含む現職首長が全員当選を果たし、構成主体議会選挙も一部地域を除いて政権与党である統一ロシアが多数派を確保した。しかし、候補者登録を巡って市民による大規模なデモが発生していたモスクワ市議会選挙では政権支持派が大幅に議席を減らし、前年の波乱で自由民主党知事が誕生したハバロフスク地方の地方議会選挙では統一ロシアが議席を大幅に減らし、自由民主党が大躍進するなど、政権に不安の残る結果も見られた。また、構成主体レベルおよび行政中心都市レベルの選挙に限定すると、投票率は41.2%と前回の37.6%を上回り、有権者も決して無関心ではなかった。

そこで本稿では、今回の統一地方選挙について、各レベルの選挙結果とともに、それに対するロシアの政治家、政治評論家らの評価なども交えてお伝えする。なお、ロシアによるウクライナ領クリミアの併合は国際的に承認されていないが、以下では参考までにクリミア共和国およびセヴァストポリ市の選挙結果についても掲載している。しかし当然のことながら、ロシアによるクリミア併合を是認するものではない。